

第31回 31文字から広がる世界

～ 万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会出場 ～

[「第2回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会」](#)に全国から242チームのエントリーがある中、光陵高校文芸部「吟遊歌人」チームが出場しました。本来ならば、全国から選ばれた8チームが万葉集ゆかりの地である鳥取県で開催される本選で短歌を競い合う予定でしたが、今般の感染拡大の影響で、オンラインでの開催となりました。1回戦では「しのめ三人娘」チーム(鳥取県立鳥取東高等学校)に敗れてしまいましたが、3人の審査員による[審査員特別賞](#)に光陵高校の生徒2名が選ばれるなど輝かしい成果を残しました。その他、神奈川県高等学校文化総合文化祭などでも、文芸部員それぞれが、優れた作品を出品し、高い評価を得ました。今回は、文芸部1年生の小野さん(O n)、山田さん(Y)、藤崎さん(F)、小熊(O g)さん、森(M o)さん、三品(M i)さん、栗原(K)さんに話を伺いました。

全国大会への出場、審査員特別賞の受賞おめでとうございます。また、神奈川県高校総合文化祭でも、多くの皆さんが入賞し、輝かしい成果をあげ、とてもうれしく思っています。まず最初に、皆さんが文芸部に入部したきっかけを聞かせていただけますか。

(Y)私は文章を書くのが好きで、小説をかけたらと思って文芸部に入りました。顧問の宮崎先生が、短歌に力を入れていらっしゃるって、おもしろそうだなとやり始めてはまっています。

(O n)雰囲気がいいなと思って入りました。最初に作った短歌を宮崎先生がとても丁寧に見てくださって、私も頑張れるかなと思いました。

(F)文章を書くのが好きだったのですが、中学校の時に作った短歌が選ばれたこともあり、文芸部に入ったら短歌をやりたいと思っていました。

(O g)最近文章を書くことがスムーズにできるようになってきたと感じていたのですが、宮崎先生に声をかけていただき、文芸部に見学に行って、私にあっていなと思って入部しました。

(M o)中学の授業でも国語が一番好きだったのですが、文芸部があることを知り、入部しました。

(M i)中学校時代に高校案内で「文芸部」という存在を知りかっこいいなと思いました。特に国語や短歌が好きだったわけではないのですが、やり始めてみると、特に短歌の 평가が楽しいです。

(K)入学当初から興味はあったのですが、別の部活動が忙しいので兼部はむずかしいかなと思っていましたが、最近、落ち着いてきたので、文芸部にも入ることにしました。

短歌の魅力について聞かせてもらえますか。

(Y)祖母が俳句をやっていて勧められたこともあります。俳句は言葉を精選し尽していくわけですが、短歌は31文字で表現します。その中で場面を分けることもできるなど表現の幅が広いと感じています。

- (O n) 普段感じていることを文字にできることが魅力だと思っています。
- (M o) その人それぞれのオリジナリティがでるところがいいなと思っています。一つひとつの言葉を吟味しながら作っていくところが楽しいです。
- (M i) 5・7・5・7・7を詠んだときの心地良さがあると思っています。
- (F) 31文字という制限の中で表現するのですが、作者の思いとは別にいろいろな読み取り方ができるところがおもしろいと感じています。
- (O g) 自分の作品を、違った視点から見て物語を想像してもらえることなどにおもしろさを感じます。
- (K) まだ始めたばかりです。短歌には自分の色が出るという話を聞きますが、自分の色ってなんだろう、どう出していくのかを考えてみたいと思います。

今回は、全国大会がオンラインでということなので、動画の作成など準備が大変だったのではないですか。

パフォーマンス賞を目指して、出場する3名だけでなく皆で取り組みました。演劇部を兼部している2人を中心に短歌に合わせて脚本を書いて、小道具なども準備して演じました。



私も当日拝見し、チームで作った作品として、とてもよくできているなと思いました。僅差だったと伺いましたが、パフォーマンス賞を逃したのは残念でしたね。では、その全国大会ですが、参加してみたいの感想を聞かせてください。

- (Y) 短歌というと、歌人の歌集とか部員どうしのものしか接してこなかったのですが、全国大会で、多くの高校生の歌に触れ、発想力の豊かな珠玉の短歌に接することができました。自分も新しいタイプの短歌を詠んでみようと思いました。
- (M i) 同年代の人たちが同じものを見ているのに表現の仕方が千差万別、一人ひとりの個性、その人それぞれの色が出ているなと感じました。
- (O g) 今の時代にも短歌を愛し親しんでいる高校生がたくさんいることに驚きました。私自身も短歌の世界に触れ、視野が広がったと思います。全国大会では、皆語彙力が高く、表現の仕方も個性があると感じました。私も自分なりの短歌を詠めるようになりたいなと思いました。
- (O n) 結果発表の時は、出場した3人と同じくらい緊張しました。同じ年の人の作品に触れ、刺激を受け、私も短歌を作りたいなと思いました。とてもいい経験でした。
- (F) 同年代の人が作った短歌に触れ、発想が違っていておもしろかったです。私もこうしたいという思いが出てきたので、これからも取り組んでいきたいと思います。
- (M o) スクリーンをとおして、その短歌を作った人がどういう人か、どういう考え方をするかがわかり、とても楽しかったです。
- (K) 短歌というと万葉集というイメージが強く、今の時代にもこういう風に短歌を詠んでいることをかっこいいなと思いました。

皆さんはまだ1年生ですから、来年、再来年とチャンスがありますね。来年の大会にかける意気込みを聞かせてください。

今年同様、本選出場ベスト8を前提に、まずはそこで1勝したいと思います。

全国大会当日は、夏期講習「[光と緑のコラボ授業](#)」に参加した横浜緑ヶ丘高校の生徒さん2名も応援にかけつけてくれましたね。

(O n)あときは、横浜緑ヶ丘高校の皆さんの作品に驚きました。

(M i)始めたばかりでよくわかりませんが、とてもうまいなという印象でした。

これからもいい形で交流を深めていけるといいですね。ところで、普段、文芸部はどのような活動をしているのですか。

部活動のGoogleクラスルームを使って、皆から歌を集めます。活動日には歌会として、それを皆で批評し合う活動を行っています。皆で鎌倉などに行って、題材を集め、歌会を開いたりもします。その他にもそれぞれ小説を書いて部誌を発行しています。

今は2年生1名、1年生8名で楽しく活動していますが、来年、新入生がたくさん入ってきてくれると嬉しいです。

本日はどうもありがとうございました。今後のさらなる活躍を期待しています。

#### [第2回万葉の郷ととりけん全国高校生短歌大会](#)

チーム「吟遊歌人」

[先鋒] 1年 山田千鶴、[中堅] 1年 三品陽成、[大将] 1年 小熊里梨

[審査員特別賞](#)「穂村弘賞」 1年 山田千鶴

[審査員特別賞](#)「江戸雪賞」 1年 小野愛加

[入選](#) 2年 松尾百華、1年 野本優菜、1年 小野愛加  
1年 藤崎真子

#### [神奈川県高等学校総合文化祭 2020年度文芸コンクール 短歌部門](#)

教育長賞 3年 居田和奏

高文連会長賞 1年 小野愛加

佳作 2年 松尾百華 \*全国高等学校総合文化祭神奈川代表

1年 藤崎真子 (3首)

1年 小熊里梨

1年 森 葵唯

神奈川県高等学校総合文化祭 2020年度文芸部誌コンクール

高文連会長賞 光陵高校「ヒカルゲンジ」